

中学生とインターネット

子ども学部 発達臨床学科

准教授 小保方 晶子

中学生が、出会い系サイトなどインターネットに関わるトラブルに巻き込まれる事件が問題となっている。

二〇一一年上半期のインターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律（出会い系サイト規制法）違反（禁止誘引行為）事件の送致件数は二三四件（昨年同期比一四・一％増）、送致人員は二二一人（同一三・二％増）である（警察庁 二〇一一）。子どもがトラブルに巻き込まれるきっかけは、出会い系サイトに関するものもあるが、それ以外のサイトに関わり、被害に会う子どももいる。最近では、ソーシャルネットワークシステムなどを通じた出会いなど、子ども自身

は最初、危険であると認識せずにトラブルに巻き込まれたり、被害に会う場合もある。

中学生のインターネットの使用は、どの程度なのだろうか。内閣府の調査（二〇〇七）では、中学生のパソコンからのインターネットの日常的な使用は六八・七％であり、携帯電話等からインターネットの情報サイトへのアクセスは五六・三％である。また、中学生が情報サイトにアクセスして行うことでは、「ホームページやブログを見る」が五五・四％で最も多く、次いで「友人の掲示板を見る」（二九・七％）である。ブログをみたり、友達とのやりとりで使っている子どもが多いことがわか

る。

本稿は、中学生のインターネット利用（特にブログやプロフの利用）、インターネットを通じた出会いの現状を明らかにすることを第一の目的とする。また、インターネットを通じた出会いの経験のある子どもの特徴を明らかにすることを第二の目的とする。最後に、インターネットを通じた出会いは、全てが出会い系サイトに関わるものではないが、子どもの特徴に出会い系サイトを利用した子どもや非行のある子どもの特徴と共通したものがあるかどうかが考察する。

調査は、二〇一〇年三月に東京都内の公立中学校六校の一～三年生二三〇三名（一年生男子四二二名、女子三八三名、二年生男子四一四名、女子三九七名、三年生男子三五四名、女子三一四名）に質問紙調査を行った。

調査内容は、（一）インターネットに関する項目（携帯電話を持っている、自分のブログやプロフを持っている、ブログやプロフの更新の頻度、友達のブログやプロフをみる頻度、コメントをする頻度、インターネットを通じて出会った人とメールをする・実際に会う、携帯の出会い系サイトを通じて出会った人とメールをする・実際に会う）、（二）生活リズムの項目（就寝時間、起床時間、携帯電話使用時間）、（三）親子関係の項目（親による監督・暴力、父親との関係・母親との関係の親密さ）、（四）学校に関する項目（友だちとの関係、先生との関

係、学校享受感）、（五）個人要因の項目（抑うつ、低セルフコントロール、共感性、向上心）である。

中学生のインターネット利用と インターネットを通じた出会いの現状

まず、携帯の所持率は七三・一％（一九七八名）であった。一年生は男子五五・五％（二二一名）、女子七四・八％（二八二名）、二年生は男子七〇・四％（二八八名）、女子八一・七％（三二二名）、三年生は男子七八・二％（二七六名）、女子八七・八％（二七三名）であった。女子の方が携帯を持っている子どもの割合が多く、男女ともに学年が上がるにつれて割合が増加していた。内閣府の調査（二〇〇七）では中学生の所持率は、五一・九％であったため、本調査の対象者の方が携帯電話を持っている子どもが多い。理由としては、内閣府の調査（二〇〇七）は全国が対象であるが、本調査は東京都を対象としていること、また、内閣府の調査より3年たっていることが考えられる。

ブログやブログの所持については一九・八％（四五五名）であった。一年生は男子六・八％（二八名）、女子二・七％（八五名）、二年生は男子一一・四％（四六名）、女子三三・三％（一三〇名）、三年生は男子一三・三％（四六名）、女子三八・一％（一一九名）であり、いずれの学年

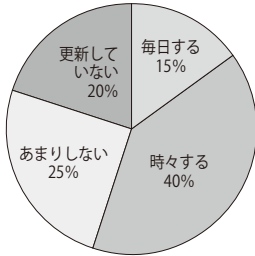
も女子に多かった。

次に、「ブログやプロフは、どの程度で更新していますか」は、「毎日する」「時々する」を合わせると、男子は五五・〇％（七十二名）、女子は七一・二％（二四一名）であった（図1）。

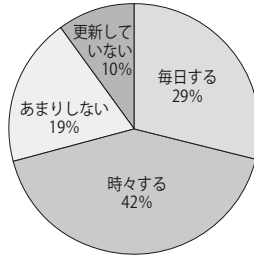
また、「友達のブログやプロフをみますか」は、「毎日

する」「時々する」を合わせると、男子一五・九％（一五三名）、女子四六・二％（四三二名）であった（図2）。「コメント欄に書き込みをしますか」は、「毎日する」「時々する」合わせると、男子八・七％（八二名）、女子二三・〇％（二二三名）であった。

ブログやプロフを持っている割合、更新の頻度は女子

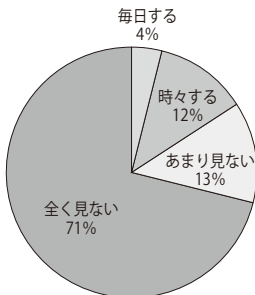


男子

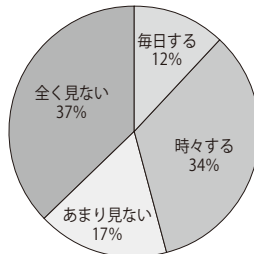


女子

図1 ブログやプロフはどの程度で更新していますか

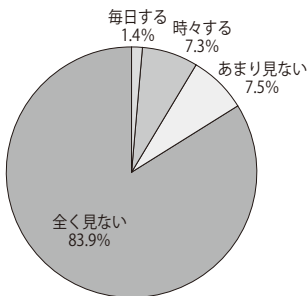


男子

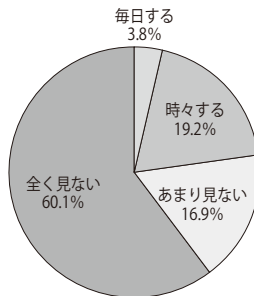


女子

図2 友達のブログやプロフを見ますか



男子



女子

図3 コメント欄に書き込みをしますか

の方が多かった。また友人のブログやプロフィールをみたりコメントをしたりとやりとりも女子の方が活発である。女子の方が、友人関係において、友人のことが気になる傾向が強いといえる。また、関係性を重視する傾向が、頻繁にやりとりをするこれらの結果に反映されているのではないだろうか。

インターネットを通じて出会った経験者は、どの程度

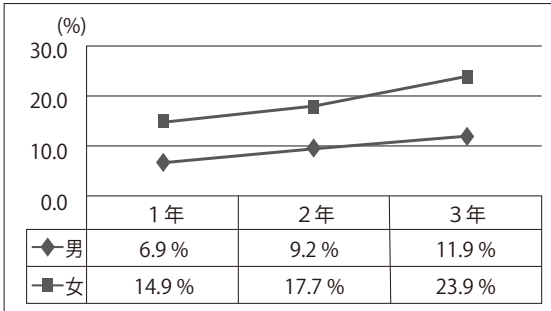


図4 インターネットを通じて知り合った人とメールをする

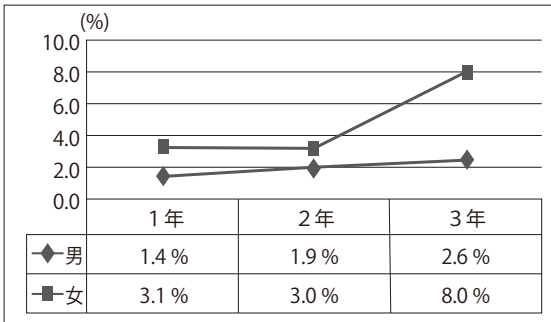


図5 インターネットを通じて知り合った人と実際に会う

いるのだろうか。「この一年間の経験」について一回でも経験のある子どもを、各々の「経験あり」とした。

「インターネットを通じて出会った人とメールをする」は、「経験あり」が三・七％(三一五名)であった(図4)。男子四・九％(二〇一名)、女子八・九％(二〇三名)であり女子に多かった。女子は学年が上がるにつれて経験者が増加していた。

インターネットを通じて知り合った人と「実際に会う」は三・一％(七二名)であった(図5)。三年生女子が、八・〇％(二五名)で多かった。

また、「出会い系サイト」については、「メールをする」が〇・五％(一名)、「実際に会う」が〇・三％(七名)であった。二〇〇二年に中学生に行った調査(小保方・無藤 二〇〇七)では、「携帯の出会い系サイトでメールをする」が四・三％、「実際に会う」が一・三％であったため、本調査の結果からは、出会い系サイトを直接的に使う子どもは減少しており、現在はほとんどないことが読み取れる。

インターネットを通じた出会いの経験のある子どもの特徴

インターネットを通じた出会いの経験のある子どもの特徴を明らかにするために、生活リズム、親子関係、学校の要因、個人の要因について、インターネットを通じて知

り合った人とメールをした経験のある人を「経験あり」として、「経験なし」と比較を行った。結果は統計的に有意な差がみられたところを中心に示す。

(1) 生活リズム(就寝時間・起床時間・携帯電話使用時間)(表1)

表1 生活リズムの「経験あり」と「経験なし」の平均値、SD

		経験あり	経験なし
就寝時間	平均値	23時57分	23時20分
	S D	1.67	1.49
	N	313	1971
起床時間	平均値	7時06分	7時00分
	S D	0.64	0.54
	N	314	1970
携帯電話使用時間	平均値	4時間05分	2時間10分
	S D	3.55	2.34
	N	255	1351

表2 親子関係の「経験あり」と「経験なし」の平均値、SD

		経験あり	経験なし
親の監督	平均値	2.87	2.96
	S D	0.69	0.70
	N	314	1964
親の暴力	平均値	1.70	1.53
	S D	0.79	0.69
	N	310	1969
父親との関係	平均値	2.24	2.33
	S D	0.96	0.96
	N	279	1803
母親との関係	平均値	2.70	2.72
	S D	1.01	0.94
	N	305	1933

生活リズムについては、「経験あり」と「経験なし」と有意な差がみられた。経験のある子どもが、就寝時間が遅く、起床時間が遅く、床時間が遅く、携帯の使用時間が長かった。経験のある子どもは、睡眠時間が短く、経験のない子どもと比較して約2時間、

携帯を長く使用している。

(2) 親子関係（親による監督・暴力、父親との関係・母親との関係の親密さ）（表2）

親子関係は、経験のある子どもが、親による監督が低く、親による暴力の得点が高かった。父親との関係、母親との関係の親密さでは、経験のある子どもとない子どもで、有意な差がみられなかった。インターネットを通じてのメールのやりとりは行動として見えにくいいため、親子関係では親密さよりも、親による子どもへの監督が低いことがより影響していると考えられる。

(3) 学校に関する項目（友だちとの関係、先生との関係、学校享受感）（表3）

学校の要因については、経験のある子どもは、先生との関係の得点が低く、学校享受感が低かった。先生との関係が親密でなく、学校を楽しいという気持ちが低いといえる。一方で、経験のある子どもは、友人関係の親密さが高かった。インターネットを通じて出会った人とメールをしたことのある子どもは、友人とのメールのやりとりも頻繁である可能性があり、それらが支えになっていることも考えられる。

中学生は、インターネットの使用が多いほど、ネット上や、ネット外の友人からのソーシャルサポートが多いこと、

表3 学校の要因の「経験あり」と「経験なし」の平均値、SD

		経験あり	経験なし
友達との関係	平均値	3.21	2.94
	S D	0.82	0.89
	N	309	1945
先生との関係	平均値	1.97	2.10
	S D	0.91	0.90
	N	310	1958
学校享受感	平均値	2.46	2.77
	S D	0.81	0.79
	N	308	1950

ネット上で親しい友人関係を築いている可能性もある。

(4) 個人要因の項目（抑うつ、低セルフコントロール、共感性、向上心）（表4）

個人の要因については、経験のある子どもの抑うつが高く、セルフコントロールが低かった（低セルフコント

特に、多くのツールの使用、多くの使用目的を持ってインターネットを使用するほど、インターネット上の友人からのソーシャルサポートが高い（安藤・高平・坂本二〇〇〇）ことから、インターネット

表4 学校の要因の「経験あり」と「経験なし」の平均値、SD

		経験あり	経験なし
抑うつ	平均値	11.87	9.50
	S D	5.87	5.13
	N	308	1938
向上心	平均値	3.22	3.27
	S D	0.74	0.69
	N	309	1955
共感性	平均値	2.82	2.74
	S D	0.73	0.73
	N	302	1950
低セルフコントロール	平均値	2.66	2.37
	S D	0.67	0.65
	N	305	1954

ロール尺度であるため、得点が高いほど、セルフコントロールが低くなる。共感性や、向上心では差がみられなかった。経験のある子どもは、抑うつの特徴が高く内面的に不適応を起している可能性がある。

また、子どもが、「経験あり」の子どもたちは、携帯電話の使用時間が長かった（本調査の結果では、四時間

五分）が、携帯電話使用と、うつ病などのメンタルヘルスの問題との関連も指摘されはじめており（勝又二〇〇九）、経験のある子どもは携帯電話の長時間の使用が、子どもの抑うつの高さに影響を及ぼしている可能性もある。さらに、セルフコントロールが低かったが、インターネットを通じて知らない人とメールをすることは、危険を伴うことであり、経験のある子どもの方が、刺激を求める傾向が強く自分をコントロールする力が弱いことも考えられる。

出会い系サイトや非行の経験のある子どもとの比較から

「出会い系サイト」と限定して尋ねた場合、経験者は少ないが、「インターネット」を通じて出会った人とメールをした経験のある子どもが多い現状が明らかになった。出会い系サイト以外のサイトを通じた出会いが増えていると考えられる。

経験のある子どもは、生活リズムで就寝時間が遅い、携帯の使用時間が長い、親による監督が低い、先生との関係が悪い、学校を楽しいという気持ちが少ない、抑うつが高い、セルフコントロールが低いという特徴がみられた。これらは、非行のある子どもの特徴と共通しているものである（小保方・無藤 二〇〇五）。出会い系サ

イトを利用したことがある子どもを検討した研究（小保方・無藤 二〇〇七）からは、「出会い系」だけを経験している生徒は少なく、タバコを吸うなどの「従来型」の非行との関連が強いこと、親子関係が親密ではなく、家庭に問題があることが明らかになっている。インターネットを通じて出会った人とメールをした経験のある子どもは、出会い系サイトの利用のある子どもや従来型の非行少年と共通した特徴がみられるといえる。

インターネットを通じた出会いは、出会い系サイトと全て関わるものではないが、子どもの特徴が非行や出会い系サイトの経験のある子どもと共通しているため、今後問題が深化していく危険性のあるものと考えられる。しかし、非行少年や出会い系サイトの経験のある子どもと異なることは、親子関係の親密さでは、経験のない子どもで差がみられなかったことである。インターネットを通じたやりとりは、見えにくいものである分、親による子どもの監督がより重要になると考えられる。

引用文献

- 安藤玲子・高平美代子・坂本章（二〇〇五） インターネット使用中学生の孤独感・ソーシャルサポートに与える影響 パーソナリティ研究 14, 69-79
- 勝又陽一郎（二〇〇九） 思春期の子どものインターネット 現代のエスプリ 松本俊彦（編） ぎょうせ

12. 73-83

警察庁（二〇一） 平成23年上半年少年非行の概要
内閣府（二〇〇七） 第5回情報化社会と青少年に関する意識調査

小保方晶子・無藤隆（二〇〇五） 中学生の非行傾向行為の先行要因：1学期と2学期の縦断研究から心理学研究 45, 61-73

小保方晶子・無藤隆（二〇〇七） 出会い系サイトなど

を利用している中学生の特徴：従来からみられる非行傾向行為との比較 犯罪心理学研究 45, 61-73